

## 1. 調査目的等

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

- ・ 小学校6年生時の全国学力・学習状況調査での全国平均正答率との差を、すべての教科で3ポイント以上縮める。

## 3. 指標にむけての取組

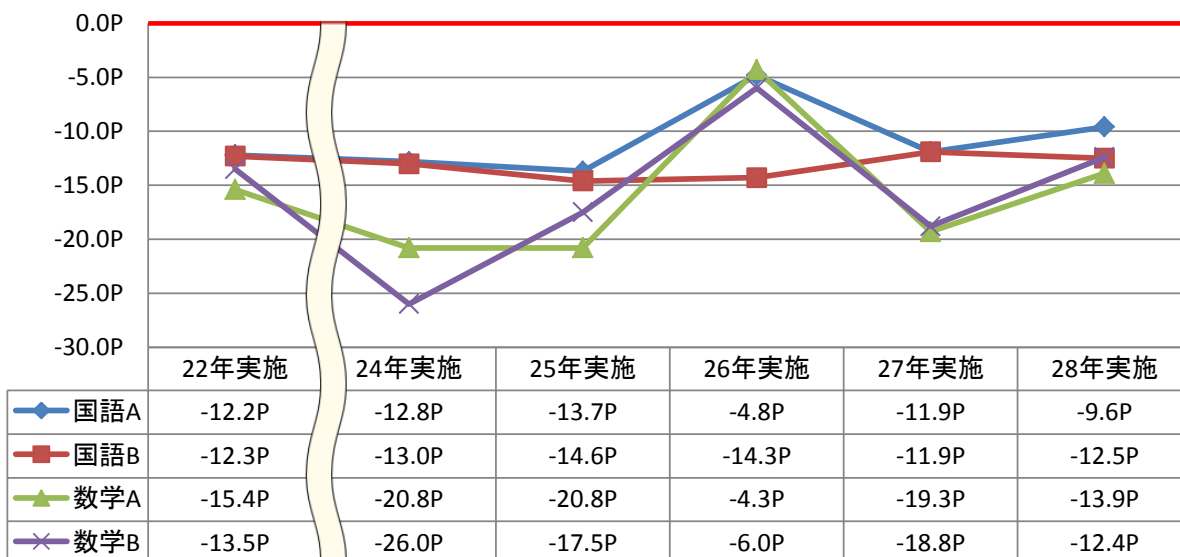
- ・ 少人数指導や個別指導、習熟の程度に応じた指導等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導を行う。
- ・ 「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」等を活用し、活用力や応用力を育む授業を実施する。
- ・ 定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを行い、基礎・基本の定着を図る。
- ・ 自学ノートと課題プリント(曜日による教科1枚)を徹底し、家庭学習の定着を図る。

## 4. 調査結果

本年度の結果 (平均正答率に対して)

教科名	国語A	国語B	数学A	数学B
本校(A)	66.0	54.0	48.3	31.7
嘉麻市(B)	69.8	58.8	51.7	35.0
(A) - (B)	-3.8	-4.8	-3.4	-3.3
福岡県(C)	74.8	65.8	60.3	42.4
(A) - (C)	-8.8	-11.8	-12.0	-10.7
全国(D)	75.6	66.5	62.2	44.1
(A) - (D)	-9.6	-12.5	-13.9	-12.4

### 全国平均との差異



## 5. 各学校における分析

- ・前年度に比べ、全国平均との差が国語B以外で縮まっている
- ・指標である小学校6年時の調査結果と比較すると、国語A+1.6、国語B+9.1、数学A-0.3、数学B+4.7と数学A以外は達成できた。特に、国語Bや数学Bが大きく伸びた一方、数学Aが繰り返し学習等で基礎・基本の徹底を図ってきたが、十分に達成できていなかった。

## 6. 各学校における今後の取組

- ・習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補充的な学習等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実を図る。
- ・県学力実態調査のフォローアップワークシートの繰り返し学習や「基礎基本を含む活用力を育成する教材集」等を活用し、活用力や応用力を育む授業を実施する。
- ・基礎・基本の定着を図るために、定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを行う。
- ・家庭学習の定着を図るために、自学ノートと課題プリント(曜日による教科1枚)を徹底する。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・中学校教科教育研究会を年間4回開催し、授業公開及び授業改善に関する協議を行う。
  - ・個に応じた指導、特に個のつまづきの把握と速やかな対応を可能にするための指導方法の工夫改善を実施する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「学力補充」を推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・学習サポーターを配置した「嘉麻市土曜未来塾」を年間40日程度開塾することで、基礎基本の定着の強化と家庭学習の習慣化を図る。
  - ・長期休業中及び放課後等における補充学習、個に応じた学習を支援する。